

特別活動(小学校)

特別活動の目標の一つ一つの文言の意味はどうなっているのか。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

1 望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成

「望ましい集団活動」とは？

特別活動固有のものであり、特別活動の特質が望ましい実践的な集団活動として展開される教育活動であることを示している。したがって、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性を育成することをねらいとする特別活動では、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事のいずれにおいても「望ましい集団活動」を展開することが前提となる。

「望ましい集団活動を通して」とは？

一人一人の児童が互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができるような実践的な方法によって集団活動を行ったり、望ましい集団を育成しながら個々の児童に育てたい資質や能力を育成したりするという特別活動の方法原理を示したものである。

人間は、所属する集団における人と人との関係の中で人間形成を図っていくという側面がある。したがって、児童の成長は、所属する集団の関係がどのようなものかによって大きく左右される。その点から、「望ましい集団」である必要があり、また、個々の児童が互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長できるような「個が生きる集団活動」を展開していくことも大切である。

★ 望ましい集団活動であるための一般的な条件

- 活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること。
- 活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、話し合い、それを協力して実践できること。
- 一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解し、自分の役割や責任を果たすとともに、活動の目標について振り返り、生かすことができること。
- 一人一人の自発的な思いや願いが尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと。
- 成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること。
- 集団の中で、互いのよさを認め合うことができ、自由な意見交換や相互の関係が助長されるようになっていること。

2 個人的な資質の育成

「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り」とは？

個々の児童が将来において社会的な自己実現を図るために必要とされる資質の基礎を培うことをねらいとして、特別活動が達成すべき目標の一つとして示してある。

目標に示した「個性」とは？

自己中心的な「閉じた個」ではなく、集団から認められ、集団の中で自らのよさをよりよく発揮し、他者と協調できるような「開かれた個」である。

目標に示した「個性の伸長」とは？

児童が、様々な集団活動を通して、多様な他者との人間的な触れ合いの中で、自他のよさや可能性に気づき、理解し、そのよさや可能性を互いに認め合い、よりよく伸ばし合うとともに、自分への自信をもち、積極的に集団活動に生かしていくことを示している。

指導に当たっては、

- 共通の目標を追求するような様々な集団活動の場や機会を多く設定する。
- 望ましい集団活動を通して、児童一人一人の個性を見い出し、客観的に理解するように努める。
- 児童が人間的な触れ合いを深める中で自他の個性について気づき、理解できるようにする。
- 互いの個性を認め合うことができるようにすることにより、自分への自信を高め、自分のよさや可能性を学級や学校生活の中で積極的に生かすことができるようにする。

特に、目標に「個性の伸長」を示したクラブ活動においては、このことに配慮して指導することが大切である。

3 社会的な資質の育成

「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする」とは？

様々な集団活動を通して、自分の所属する集団への所属意識をもち、集団の一員としての自覚をもって生活の向上のために進んで貢献していこうとする社会性の基礎を育成していくことを示している。

社会性の基礎を身に付けるためには、児童が互いの特性を認め合う中で、与えられた役割を自覚し、責任をもって仕事を果たす必要があるものであり、このような経験を積み重ねることが大切である。

指導に当たっては、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築くことへの関心・意欲を高め、諸問題の解決に向けて思考・判断を深めるとともに、実践を通して集団活動を行うのに必要な知識や技能を身に付けるよう、学級や学校の集団の育成上の課題や発達の段階に応じた課題に即して適切に指導することが求められる。

4 自主的、実践的な態度の育成

「自主的、実践的な態度を育てる」とは？

特別活動が目指す中心的な目標であり、「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り」や「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする」ことについて、児童自身が意識して努力したり、自ら高めたり、伸ばしたりすることができるようにするなど、自主的、実践的な態度を育てることを示している。

児童相互が協力し合って活動の目標を設定したり、自分の役割や責任を進んで遂行したりするとともに、個々の児童が実際に直面する諸問題への対応や解決の仕方などを実践的、体験的に学ぶなどの自発的、実践的な取組を通して、児童一人一人に自分への自信をもたせ、これらを発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成していく。

5 自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う

「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」とは？

集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする多様な集団活動を通して、望ましい認識がもてるようにするとともに、集団の中で自己を生かす能力を養っていくことを示している。

例えば、
集団の一員として、目標をもつこと、将来に夢や希望をもって現在の生活を改善しようとする、協調性や責任感、規範意識を高めること、人権を尊重することなどにかかわる自己の生き方についての考えを深め、その大切さを認識できるようにすることである。また、これらのことにかかわる自己のよさや可能性を集団の中で生かしてよりよい生活を築いていくことができるような能力を育成することである。

児童は様々な集団活動に参加することによって、他人の立場を理解し、自己を律し、共通の目標を達成するために力を尽くすことを学ぶ。さらに、集団活動の運営について、意見を交換し、計画の実行に際して直面する困難や課題を克服するために工夫し、協力することによって各自の役割を自覚し責任を果たすことができ、また、多くの社会的知識と社会的技術を獲得することができる。